

Fuji Champion Race Series Round 2

2019.5.11 SAT - 12 SUN

ROADSTER CUP 1.5/1.6/1.8/2.0

Round 1



富士チャンピオンレースは快晴の中で第2戦が行われた。今回が開幕戦となったこのカテゴリーは土曜日に予選・決勝が行われた。総合トップタイムでポールポジションを獲得したのは1.8クラス55 JOY☆MotysアクレNB8澤田薫 2'08.666。3番グリッドには2.0OPクラストップの77 NDSエンジニアリング 長岡哲也がつける。オープニングラップは1コーナーとコカ・コーラコーナーで中段グループのアクシデントが少々あったものの55 澤田がトップを守る。その背後には4番手からジャンプアップしてきた1.8クラス35 YoT内藤板金ワイスタイヤNB 松波太郎が追いかける展開。ラスト2周まで激しいトップ争いが続いたが、最後は1.5秒の差をつけて8 澤田が逃げ切った。各クラスの優勝ドライバーは、総合・1.8クラス 55 澤田「今まで雨では勝ったことがありませんが、ドライで勝てたのは6年続けていて初めてでとても嬉しいです」1.6クラス76 辻本運送アクレNA6 辻本均「予選ペナルティで2グリッド降格、どう抜かそうか考えてスタートしたけれど、直後のアクシデントにその位置だったから巻き込まれなかったし、“漁夫の利”でした」1.5オープン7 JoyアクレMotys☆ND5 茂木文明「オープニングラップのわちゃわちゃに巻き込まれてどう抜かし返そうか考えながら走っていました。ワンチャンスを狙いました」1.5チャレンジ103 密林雲ロードスター 松尾康博「ミスもなく練習通りに走りました。富士チャンは初めてで勝てて嬉しい」2.0オープン 19 KM&DO-ENGロードスター 山口幸治「混戦をうまく抜けられて初優勝できました！」2.0チャレンジ 8 ド☆ライダーロードスター ED 菊池聡「3周目に自分のコンタクトレズが外れるというアクシデント！とにかく安全にと考えながら走りました」と語った。



RESULT リザルト 1.6

Rank No.	Name
1	76 辻本 均
2	27 野木 強
3	53 水野 寿通
4	2 渡邊 達也
5	34 竹田 幸一郎



RESULT リザルト 1.8

Rank No.	Name
1	55 澤田 薫
2	35 松波 太郎
3	88 橋本 悠亮
4	91 神谷 誠



RESULT リザルト 1.5チャレンジ

Rank No.	Name
1	103 松尾 康博
2	32 原嶋 昭弘
3	20 五賀 貴男
4	5 山崎 善健
5	78 赤石沢 清人
6	28 藤谷 健一



RESULT リザルト 1.5オープン

Rank No.	Name
1	7 茂木 文明
2	79 杉浦 良
3	13 杉山 俊



RESULT リザルト 2.0チャレンジ

Rank No.	Name
1	8 菊池 聡
2	50 藤澤 卓也



RESULT リザルト 2.0オープン

Rank No.	Name
1	19 山口 幸治
2	77 長岡 哲也
3	1 高橋 裕史
4	25 橋川 学

FCR-VITA Round 1



RESULT リザルト FCR-VITA

Rank	No.	Name
1	32	武村 和希
2	21	いむら せいじ
3	99	近藤 善嗣
4	0	眞田 拓海
5	14	下垣 和也
6	11	瀧井 厚志

SUPER FJ Round 2



RESULT リザルト SUPER FJ

Rank	No.	Name
1	36	小村方 喜章
2	30	木下 藍斗
3	8	野村 大樹
4	54	山田 健

FCR-VITA開幕戦も土曜日に予選・決勝が行われた。ポールポジションの座を仕留めたのは0 spr 犬猫処分0号VITA 眞田拓海 2'00.490。フロントローに並ぶのは21 オートルックVITA-01 いむらせいじ 2'00.563で、3番手には32 ガレージビーフラット VITA 武村和希2'00.868といったグリッド順に決まった。決勝ではオープニングラップをトップで戻ってきた0 眞田、21いむらと32武村もコマ差で追いかける。3周目には32武村が2番手に浮上し0眞田を追いかける。7周目まではトップ2台の争いに若干間隔を開けてついて行っている21いむら。8周目からはさらに各コーナーで2台並んでのトップ争いが続いた。しかし、最終ラップのダンロップコーナーで0眞田が痛恨のミス。4番手まで順位を落としてしまい、10週の決勝レースは32 武村、21 いむら、3位には99 くじら ☆タイエリート☆CF亜依 近藤善嗣が入った。激しい戦いを制した32武村は「予選のタイム差はあったけど、このくらいの差なら行けるかなと思って臨みました。後半、タイヤはタレてきましたが、クリーンなバトルが続けられて良かったです。後ろも近づいてきましたがプレッシャーをかけ続けることも出来ました」と語った。

第2戦を迎えたSuper FJは、全国他のサーキットで日程が重なってこのカテゴリーが行われている為か、エントリー台数が5台という少々寂しいレースになってしまっていた。その中で土曜朝の予選にてポールポジションを決めたのは開幕戦2位に入った7 ENATECH ZAP ED 中谷要太 1'54.476。フロントローには36 アルビ玉三郎GIA湯吐 ED 小村方喜章 1'54.998。3番手には30 マルQ・ガレ茶・ED・10V 木下藍斗 1'55.183といったグリッド順になった。土曜日の最終レースとなったこのレース、16:07にスタートがきられ直後のTGRコーナーでトップ2台が接触。コースに戻ったものの7中谷はそのままピットに戻ってリタイアとなった。代わってトップに立った30 木下、追いかける36 小村方。3周目の最終バナソニックコーナーで並びかけた36小村方がストレートで8木下をパスしてトップに出る。その後は徐々に差を広げるがその後ろで30 木下と8 WRS NOMURA 10V 野村大樹が激しい2位争い。12週の決勝は36 小村方、30 木下、8 野村の順でチェッカーとなった。レース後36 小村方は「中谷さんと接触してしまったのはレーシングアクシデントとはいえ、後味は悪いです。次回はちゃんとバトルして勝ちたい」と語った。

86&BRZ/8Beat

Round 1



今シーズンの開幕戦となったこのカテゴリー、ナンバーなしN1車両の86&BRZクラスとナンバー付の8Beatクラスの混走で今年も行われる。日曜日の朝一番で行われた予選でトップタイムを出したのは8Beat JP-2R 55 AUTOFACTRY86 たしろじゅん 2'00.257。86&BRZクラストップは総合6番手の54 86Racer's土山号 土山哲史 2'03.026。気温18度、路面温度41.8度、晴れという絶好のコンディションの中、12:13に決勝スタートがきられトップを守る55 たしろだが、背後には99 プロコンポジットBLITZ86 松井有紀夫が追いかける。何度も並びかけ、4周目には99 松井が前に出るもすぐに99 たしろが抜き返すといったバトルが繰り返され、その後ろの3番手も終始激しい戦いが続く。10週の決勝は55 たしろが逃げ切って総合優勝。86&BRZクラスも激しいトップ争いが続いたが54 土山が逃げ切り優勝した。55 たしろは「暑かった！去年までの8周が今年から10周になって少し戸惑いましたが良いバトルも出て皆に見せられたかな」54 土山は「デビュー 2戦目で勝つことができました！走り方をし指導してくれた砂子塾長や竹内さんに感謝です」と語った。



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank	No.	Name
1	54	土山 哲史
2	53	平田 雅士
3	50	桂 涼
4	57	高橋 裕史
5	31	福田 憲司
6	35	土本 忍



RESULT リザルト 8Beat 2S

Rank	No.	Name
1	77	広瀬 安浩
2	15	鵜塚 直人
3	750	鍛冶田 昇



RESULT リザルト 8Beat 3S

Rank	No.	Name
1	44	小林 純矢
2	313	綾野 興
3	1	木幡 修一郎
4	06	坂本 猛彦
5	2	荒木 丈晴
6	72	堀 舜之



RESULT リザルト 8Beat 2R

Rank	No.	Name
1	55	たしろ じゅん
2	99	松井 有紀夫



RESULT リザルト 8Beat 4S

Rank	No.	Name
1	43	常盤 岳史

KYOJO-CUP Round 1



RESULT リザルト KYOJO-CUP

Rank No.	Name
1	86 小泉 亜衣
2	49 荻原 友美
3	33 細川 由衣花
4	24 藤島 知子
5	28 RINA ITO
6	87 山本 龍

N1500/N1400/N1000 Audi A1 Fun Cup Round 1



RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	72 高橋 ノボル
2	5 水谷 明彦
3	21 大竹 直
4	26 斎藤 和実
5	89 松山 雄大
6	3 山田 大輔



RESULT リザルト N1000

Rank No.	Name
1	28 立河 元基
2	54 垣生 彬
3	27 山崎 じん
4	32 大石 進哉



RESULT リザルト Audi A1 Fun Cup

Rank No.	Name
1	102 イシカワ ヨシオ
2	108 柄沢 聡太郎
3	101 斎藤 浩徳
4	106 内野 徳昭
5	107 橋本 泰一
6	105 小野津 博之

この週末の最終レースとなったこのカテゴリーも今回が開幕戦。日曜の午前中に行われた予選ではN1400クラス52 アレスQSグローバルlp82 高橋ノボルが2'11.189。フロントローに並ぶのは、5 アネックス内藤銀金EP82 水谷明彦が2'11.297。上位5台までが0.4秒以内に入るとい、今シーズンも激戦が予想されるこのクラス。Audi A1 Fun Cupは総合9番手で102 東京IRC Audi A1 イシカワヨシオが、N1000クラスは32 フランケンズヴィッツ 大石進哉がクラストップ。各クラス今年も激しい戦いになりそう。決勝ではスタート直後から各所でバトルが繰り広げられるも2周目には落下物によりSC導入。4周目にリスタートが切られたがトップ5台の優勝争いバトル。Audi、N1000クラスも最後までコンマ差のトップ争いが繰り広げられた。N1400クラスの72 高橋がポールトゥウィンを飾り、Audiも順位の入れ替わりもあったものの、最後はほぼ並んでチェッカーの形になり102 イシカワが僅差で優勝。N1000は3番手グリッドから追上げた28 ALPHA IDI ヴィッツ 立河元基が優勝した。レース後、N1400クラス72 高橋「いつものことながら大変でした。タイヤもきつかったし。昨シーズンはチャンピオンを逃したので今年こそ取りたいです」Audi A1 Fun Cupクラス102 イシカワ「37年ぶりの富士での優勝！嬉しい！」N1000クラス 28 立河「3位から上がられての初優勝で、ものすごくうれしいです」と語った。

Inter Proto Series
Round 1-2
Gentleman Driver



7年目に入力したこのカテゴリー、今シーズンもまた熱い戦いを魅せてくれると予想される。土曜日の朝の予選でのトップタイムはIP-Eクラス32 NETZ NOVEL MIE 永井秀貴 1'48.081。フロントローにはIP-Gクラスの96 岡山トヨペットK-tunes 末長一範が並ぶ。CCS-Rは28HTP RACING CCS-R 平川亮がトップタイムも賞典外のため、51 P.MU RACING CCS-R ト部治久の1'53.337がトップ。土曜日午後に行われた第1戦決勝は32 永井が序盤から後続を引き離しにかかる。2位争いは96 末長と7 J-Gear7 とおる君でバトルが繰り広げられるが、一瞬の隙をついて7 とおる君が前に出る。12週の決勝は32永井が逃げ切り優勝。2位にはIP-Gクラス優勝で7とおる君、CCS-R 51 ト部が逃げ切った。レース後32永井「こんなに上手くいくとは思っていませんでした」7とおる君「末長君よりペースが上がらなかったのですが勝つことができました」51 ト部「一緒に走った平川君が、走りのポイントを後で教えてくれるそうです」とコメント。翌日曜日の第2戦は第1戦の結果順のグリッド。スタートから32永井が引き離しにかかるが、4周目のアクシデントでコース上にオイルが出てしまい6周目にはSC導入、ラスト2周となる10周経過後に再スタートが切られたがここでも32永井が逃げ切って優勝した。2位・IP-G優勝は7とおる君、CCS-Rも第1戦に引き続き51 ト部が連勝した。レース後、各クラス優勝者は 32 永井「2連勝出来て嬉しい！オイル旗は見えていたけれど、少し乗って滑ってしまいました」7とおる君「昨日は末長さんに救われて、今日はSCに救われたかな。2連勝出来て嬉しいです」51 ト部「タイヤの使い方でもうちょっとタイムが出せたかも？2秒台に入らなかったです」と語った。

Round 1

IPS-Expert



RESULT リザルト IPS-E

Rank No.	Name
1	32 永井 秀貴
2	16 渡邊 久和

IPS-Gentleman



RESULT リザルト IPS-G

Rank No.	Name
1	7 とおる君
2	96 末長 一範
3	55 虫谷 泰典
4	8 けんたろ
5	37 八木 常治
6	44 横井 克一郎

CCS-R



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	51 ト部 治久
2	5 伊藤 康則
3	10 天野 雅仁
4	87 疋田 亮

Round 2



IPS-Expert



RESULT リザルト IPS-E

Rank No.	Name
1	32 永井 秀貴

IPS-Gentleman



RESULT リザルト IPS-G

Rank No.	Name
1	7 とおる君
2	55 虫谷 泰典
3	8 けんたろ
4	44 横井 克一郎
5	37 八木 常治

CCS-R



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	51 ト部 治久
2	5 伊藤 康則
3	10 天野 雅仁
4	87 疋田 亮

Inter Proto Series
Round 1-2
Professional Driver



今年もトップドライバー達が終結したこのカテゴリー。まず土曜日に行われた予選で第1戦のポールポジションの座を獲得したのは、96 岡山トヨベツトK-tunes 中山雄一 1'45.578。フロントローには昨年最終戦に初参加で優勝した7 J-Gearとある君野尻智紀 1'45.861。CCS-Rでは87 NTP RACING NC CCS-R 松井孝充の1'50.607がトップ、並ぶのは5 NTP RACING NN CCS-R 阪口良平の1'51.056。日曜日午後の第1戦決勝では直後から上位5台が激しいトップ争い。4周目に7 野尻が96 中山をパスして前に出るが終始バトルが続く。9週の第1戦は7 野尻が逃げ切って優勝。2位には予選5番手から激戦を潜り抜けて順位を上げた55 人馬一体ドライビングアカデミー 山下健太が入った。CCS-Rは序盤から好調に引き離しにかかった87 松井がそのまま優勝。続く第2戦は、ここでまた上位4台が激しいトップ争いを繰り広げたが、7野尻が逃げ切った。CCS-Rでも87松井が連勝した。第2戦決勝後の優勝ドライバーはIPS 7 野尻「マシンの調子が良く車に助けられたし、トップに出られた後も2位争いもしてしてくれたので、順位争いにも助けられて優勝できてよかったです」CCS-R 87 松井「良いマシンセッティングをしてくれたメカニックさんたちに大感謝です！」と語った。

Round 1

IPS-Professional



RESULT リザルト IPS Pro

Rank No.	Name
1	7 野尻 智紀
2	96 中山 雄一
3	55 山下 健太
4	37 阪口 晴南
5	32 近藤 翼
6	44 蒲生 尚弥

CCS-R



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	87 松井 孝允
2	5 阪口 良平
3	10 河野 駿佑
4	28 平川 亮
5	51 ナニ・インドラ・バロング

Round 2

IPS-Professional



RESULT リザルト IPS Pro

Rank No.	Name
1	7 野尻 智紀
2	55 山下 健太
3	96 中山 雄一
4	32 近藤 翼
5	44 蒲生 尚弥
6	8 篠原 拓朗

CCS-R



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	87 松井 孝允
2	5 阪口 良平
3	10 河野 駿佑
4	28 平川 亮
5	51 ナニ・インドラ・バロング